

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（1 / 3 ページ）

種目(教科等)【 美術 】

項目	教科書名(美術1・2・3)	会社名(開隆堂)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○自他の理解を促す表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、自分と他者や社会とのかかわりを感じ取ることで、美術を愛好する心情を育てる工夫をしている。</p> <p>○感性を豊かにするために、多様な作品例や生徒の制作活動の様子を基に、生徒自ら発想や構想を生かせる題材を設定している。鑑賞題材を見開きにし、鑑賞のきっかけになる「問いかけのマーク」を示している。鑑賞にかかわるページを通して、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う工夫をしている。</p>	
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫> ○題材の中で基礎的な技法や知識に関する所に「マーク」を使用し、題材のポイントが理解できるように工夫されている。巻末資料で、用具や材料の安全な扱い方、色彩に関する資料を掲載することにより基礎的・基本的な能力を身に付けさせる工夫をしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○生徒や作家の制作過程や作者の言葉を掲載し、統一したデザインの枠の中に示されている。発想や構想を練る際の思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「学習の目的」と「学習の振り返り」を示し、学習展開が分かりやすく、活動のヒントを囲み記事で掲載している。学校行事に関する作品の掲載が多く、美術を身近に感じ、主体的に取り組む態度を養う工夫をしている。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○多様な素材や表現方法と生徒作品を中心に、系統的な題材を配列し、小見出しを用いて活動の選択肢を増やしている。「鑑賞のきっかけになる問い」や「知識や情報」がマークで示されており、発想や構想の能力を働かせる工夫をしている。</p> <p>○発想や構想のヒントとなる考え方が分かりやすく示されており、生徒自身が主題を見つけ意欲的に取り組み、創造的な活動が展開できるよう工夫している。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○題材ごとにキーワードを盛り込み、生徒が望む表現手段や手順、基礎的な技法や安全な道具の取り扱い等を示し自分の表現意図に合ったものを発見できるよう工夫している。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○歴史的なものから現代の作品まで幅広く取り上げている。作品と共に作者の言葉も掲載している。表現と鑑賞のページを分けずに一体的に学ぶことができる。絵巻物では、流れに沿って学習できるように構成している。</p> <p>○鑑賞や言語活動のきっかけとなる「問いかけマーク」を用いて示している。</p>
	資 料	<p>○「原寸ギャラリー」として、実物に近い大きさと、見て感じる資料となっている。</p> <p>○制作する上で、発想を促すためのヒントや題材の中で使われる技法、制作過程を写真や言葉、吹き出しで示している。</p> <p>○巻末に色彩理論や年表(人物画の表現で美術の流れを示す)などを資料として掲載している。題材ごとに各ページで必要な技法を分かりやすく掲載している。</p>
	表記・表現	<p>○題材名の下にねらいを掲載し、色、マーク等が統一されており、どんな内容が示されているか視覚的に分かりやすく掲載している。学習の振り返りを観点別に示している。鑑賞のきっかけとなる「問いかけ」や「安全に注意」に関する内容を色分けしている。</p> <p>○題材に関連した資料のページを下段に示している。</p>
総 括	<p>○中学生の発達の段階に沿った系統的な題材で構成している。表現と鑑賞のページは区分せず、各題材の中で表現と鑑賞を関連させながら学習できる構成になっている。</p> <p>○題材ごとに「学習の振り返り」があることで、生徒自身がどのような活動をしたのか、どのような力が付いたのかが確認できるように工夫している。</p> <p>○生徒の内面に重点を置いた題材とねらいを設定し、生徒作品には作者の言葉を掲載している。「学習の振り返り」は観点別の自己評価項目として授業評価に生かせる。</p>	

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（2 / 3 ページ）

種目(教科等)【 美術 】

項目	教科書名(美術1・2・3)	会社名(光 村)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○小中の連携を重視した学びの連続性を大切にしている。表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、自然や環境、身の回りの生活用品などのかかわりを示すことで、美術の創造活動の喜びと美術を愛好する心情を育てていく工夫がある。</p> <p>○感性を豊かにするために日常で実際に飾ったり、使ったりする例を扱った題材を設定している。原寸大の作品を取り入れたり、見開きにするなど、実生活に生かすためのマークをつけるなどの工夫をし、鑑賞のページを充実させている。</p> <p>○豊富な資料を通して、美術文化についての理解を深めるよう工夫している。</p>	
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫> ○各題材の中でたくさんの「マーク」を使用し、題材のポイントが理解できるように工夫されている。特に巻末資料へのリンクのマークは資料を有効活用できるよう工夫している。基礎的・基本的な用具の扱い方や造形的な能力を身に付けさせる工夫をしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○作品を制作する過程を「みんなの工夫」として示し、発想や構想を練る際の思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○生徒一人一人が自分の作品づくりのイメージをつかめる「発想や構想のヒント」を示し、創造的な造形活動を展開できるように工夫している。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○生徒一人一人が主題を生み出すために「発想や構想のヒント」が示されており、多様な素材や表現方法を追求できるよう工夫している。中学生が学習する技法に関しては、系統的な題材を配列し、創造的な造形活動を導きやすいよう示している。</p> <p>○各題材に沿った作品や図版、生徒の活動例などを掲載し、「みんなの工夫」を示すことで、発想や構想のヒントとなる考え方が分かりやすく示されている。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○授業に必要な技法や道具の使い方を学習できるように、巻末の「学習を支える資料」を示している。生徒一人一人の表現意図に合った技法を習得し、生徒が自ら考え、主体的に取り組む、美術の技能を高められるよう工夫している。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○原寸大で印刷された伝統工芸品（螺鈿）等、生徒の興味、関心を高める鑑賞のページを工夫している。作品について考える「問いかけ」は、授業内容を深めるものとなる。</p> <p>○歴史的なものから現代の作品までバランスよく取り上げている。作品と共に作者の言葉も掲載しており、鑑賞の授業を単独で実践できるよう工夫してある。</p>
	資 料	<p>○「原寸大で鑑賞しよう」では、本物の寸法で鑑賞できる資料を掲載している。</p> <p>○「道徳」との関連性を持たせ、日本美術のよさを感じ取らせる工夫をしている。</p> <p>○題材に対して、生徒の発想のヒントとなるよう「みんなの工夫」を示している。</p> <p>○巻末に生徒一人一人の学習を支える技法等の資料を掲載している。巻末の「トピックス美術史」は、美術と世界史をリンクさせて掲載し、見やすい工夫をしている。</p>
	表記・表現	<p>○生徒に必ず身に付けさせたい力やねらいを10の項目のマークで示し、視覚的に分かりやすく掲載している。各題材の目標と〔共通事項〕に関連する項目を示し、学習の評価を明確にしている。生活と美術の関わりを示す内容が豊富にある。</p> <p>○ページの横に題材の参考となるよう巻末への資料の提示マークがある。</p>
総 括	<p>○題材を「表現」と「鑑賞」に分け、それぞれに日常の生活で目に触れる機会が多くあるデザインされた用具や美術作品（伝統工芸も含む）の図版を取り入れている。</p> <p>○生徒の発達の段階に合わせた主体的な活動を促すために10項目のマークを使い、学習のポイントを示している。道徳との関連を持たせ、鑑賞に役立つものとなっている。</p> <p>○3年間を見通した構成になっており、題材に必要な技法や材料に関して、日本の伝統文化のよさ、美術と社会、自然とのかかわりを示す図を巻末に示す工夫をしている。</p>	

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（3 / 3ページ）

種目(教科等)【 美術 】

項 目	教科書名(美術1：出会いと広がり) (美術2, 3上：学びの深まり・2, 3下：美の追求) 会社名(日 文)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○生徒の発達段階に合わせた表現と鑑賞の造形活動を通して、美術の創造的な学習活動に意欲的に取り組み、日常生活や社会とのかかわりを感じ取ることができる。表現と鑑賞を通して、美術を愛好する心情を育てる工夫が示されている。</p> <p>○感性を豊かにするために、「自分と他者」「生活と社会」「自然と環境」をテーマとして、学習を進めて行く構成となっている。原寸大の作品を掲載したり、紙質を変えたりして、日本の美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う工夫をしている。</p> <p>○実生活に生かすためのマークに工夫があり、学習のめあて等を明確に示している。</p>
特 色	<p><基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫> ○各題材の中で制作過程が分かるような図版やアイデアスケッチ、生徒作品を豊富に掲載している。特に巻末資料は、生徒一人一人に基礎的・基本的な用具の扱い方や造形的な能力を身に付けさせる工夫をしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○各題材に「学びのねらい」が示してあり、作品を制作することで身に付く力を確認し、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○各題材に、学習の手立てとなる内容を「POINT」のマークで示し、生徒一人一人が主体的に造形活動に取り組む態度を養う工夫をしている。</p> <p><対象を見つめ感じ取る力や想像力を高める工夫> ○アイデアスケッチや作者の言葉等を示し、発想や構想のプロセスを具体的に学習することで、生徒自らが作品の主題を設定できるよう工夫している。 ○工芸デザイナーの言葉から身の回りをデザインすることの面白さ、大切さを理解することができ、生徒自身の生活の中からデザインする「よさ」を発見することができる。</p> <p><創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫> ○授業に必要な技法や道具の使い方を学習できるように、巻末の「技法や鑑賞の資料」や「作者の言葉」を示し、生徒一人一人の表現意図に合った技法を習得し、生徒が自ら考え、主体的に取り組む、美術の技能を高められるよう工夫している。</p> <p><よさや美しさなどを味わわせる工夫> ○「鑑賞の出会い」は、日本の美術文化への関心を高める鑑賞のページを工夫している。特に見開きの葛飾北斎の版画作品は、紙質を変えた鑑賞資料となっている。 ○歴史的なものから現代の作品までバランスよく取り上げている。作品と共に作者の言葉も掲載しており、鑑賞の授業を単独で実践できるよう工夫してある。年表には、日本と中国の美術文化の交流が↓で示し、見やすく工夫している。</p>
資 料	<p>○生徒のアイデアスケッチや言葉などを示し、自分の制作に生かせるよう発想から構想までのプロセスを大切に示した内容を工夫してある。</p> <p>○「道徳」との関連性を持たせ、日本美術のよさを感じ取らせる工夫をしている。</p> <p>○2・3下の最後に3年生に向けた「あなたへ」という詩を掲載し、卒業後も社会で美術文化に興味・関心をもつようなメッセージを掲載している。</p>
表記・表現	<p>○学習の手立てとなる内容を題材ごとに「POINT」のマークで示している。</p> <p>○題材名の下に副題を示すとともに、学習のねらいを観点別に掲載している。</p> <p>○制作する上で、安全に関する注意点をマークで示している。</p> <p>○道徳の学習と関連する内容を示し、鑑賞授業との関連を図っている。</p>
総 括	<p>○学習する領域を「表現」と「鑑賞」のページを独立して設定した構成となっている。</p> <p>○生徒の発達段階に合わせた主体的な活動を促すために8項目のマークを使い、学習のポイントや注意事項を示している。生徒が自己の3年間の成長が実感できるよう、自分—他者—社会といった広がりのある題材設定を示している。</p> <p>○道徳と関連を持たせたり、日本の伝統文化、美術と社会、自然とのかかわりを見開きや紙質を変えるなどして、効果的に構成し、掲載している。</p>

